

第4次 矢持地域まちづくり計画

誰もが、安全で安心して健康で住み続けられる矢持地域



令和6(2024)年5月24日
矢持住民自治協議会

【矢持地域の概況】

矢持地域は霧生区、腰山区、諸木区、福川区の4区で構成された小規模な地域で、博要地区及び高尾地区とともに伊賀市の住民自治協議会の中では最も人口が少なく高齢化率が高い地域となっています。

平成の大合併で伊賀市となった2004年頃には700人を超えていた矢持地域の人口は、2018年には500人を割り込み、2024年中には400人を割り込む可能性がでてきました。

高齢化率も65%近くとなり、3人に2人が65歳以上となり、博要地域及び高尾地域とともに限界集落に近づきつつあります。

矢持地域の下流域には2023年3月に完成した川上ダムがあり、県道松阪青山線が整備されたことで近鉄青山町駅や伊賀市の中心部、名張市等へのアクセスはよくなりました。

しかし、地域の上流域にあるメナード青山リゾートまでの間で未整備部分が多くあること、また、県道蔵持霧生線の高尾地域までの間も同様に未整備部分が多く、関係自治協が協力して三重県や伊賀市への要望活動を行っていますが、道路改良は予算の範囲内ということで全面改良には程遠い状況です。

※地域組織としての霧生区には、上出、中部、中央、広刈の4小場が含まれている。

※令和6年1月末時点で、人口が一番少ない自治協は博要、二番高尾、三番布引、四番矢持、五番比自岐。

【限界集落に近づく矢持地域】

急激な少子高齢化や人口減少が引き起こす環境の変化により、公共交通の減便、商店の消滅、診療所の廃止などで生活環境が悪化し、地域で安定した生活を営みにくくなっています。また、空き家の増加、不便な場所にある田畑や森林の荒廃、鹿・猪・猿などの獣害の増加がみられ、人が住みにくくなる環境に拍車がかかっていると同時に、これらの課題を解消するための人材(担い手)が不足しています。

一方で、近年積極的に移住者を受入れている地域や特別養護老人ホーム森の里で働く外国人介護人材などが空き家を活用した社宅に居住することで、高齢化率を押し下げただけでなく、閉鎖的だった中山間地域の集落が変わるきっかけになる可能性がでてきています。

隣接する博要地域においては、移住施策を柱に住民自治協議会の事業が行われていること、また高尾地域においては防災対策に力をいれていることなど、近隣地域の取組みを参考にし、協力関係を結ぶことで課題解決の糸口が見えてきています。

【農林業への影響】

地域の主要産業であった農林業のうち、林業については後継者不足が顕著であり、放置山林が散見されます。農業については、新規就農者はいないものの50以上の在住者(認定農業者等)が頑張っており、農地を集積・集約化を図っていることで現時点では圃場整備した農地は維持・活用されています。また、耕作放棄された田畑などを利活用し地域の活性化に寄与する地域グループが結成され、パッションフルーツ栽培やブルーベリー園の経営、露の栽培などを行うグループが積極的な活動をしています。特にパッションフルーツ栽培においては、独自の栽培方法を開発するとともに、メナード青山リゾートとのコラボ商品の開発や多気町のVISONなどへの出品などの活動を続けています。ただし、グループ構成員の高齢化は顕著であり、その影響は避けられません。

これら矢持地域の農業を維持・継続していくためには地域の内外を問わず人材(担い手)の育成が求められています。

【地域活動への影響】

矢持地域を構成する各区や各小場など長年に渡り地域の中心的役割を担ってきた組織も、少子高齢化や人口減少、構成員の減少による財源不足により、地域行事(伝統行事や共同作業など)の継続が難しくなっています。また、組織を代表する役員などの成り手も不足しています。

一方で、コロナ禍で自粛し、その後の活動が危ぶまれた伝統行事も、新たなかたちを模索するなかで復活している地域もあります。ただし、現時点では地域内外の協力者がいることで運営できていますが、グループ構成員の高齢化の影響は避けられず、活動を維持・継続していくための工夫が求められています。

【災害の激甚化・頻発化】

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の最大震度は7。人的被害も多く、また、建物や道路などの生活基盤は想像以上に被害を受けたことが明らかになってきました。

最大震度7を観測した地震は2011年の東日本大震災以降、2016年の熊本地震で2度、2018年の北海道胆振東部地震、そして今回の能登半島地震。いずれも電気・水道・ガス・通信などライフラインが止まり、避難生活にも多大な影響がでました。

また、近年の災害は地震だけでなく、異常気象の影響を受け風水害による災害の激甚化や頻発化がみられます。昨年8月には、私たちの地域で停電の復旧に約2日間もかかり、携帯電話が使えなくなりました。火災や救急搬送が無かったので大事には至りませんでした。これまでの防災対策では不十分であること、また、公助(行政等の公的支援等)を受けるには、相当の時間を要することもわかりました。

【私たちの活動拠点、市民センター建設】

令和5年12月4日付伊青第625号で伊賀市長より、現在地での市民センター建設は困難であるとの回答が届きました。理由は、矢持地区市民センターの敷地が伊賀市水害ハザードマップ(令和5年1月作成版)で全体が浸水想定区域となったことから、高齢者が多い当地域にふさわしいバリアフリー等に配慮した施設建設は困難と判断されたようです。

については、当面の間は現在の市民センターを使用しながら、新しい市民センターの整備要望を行っていくことになります。

新しい市民センター整備については、想定される自然災害に対し安全で、かつ、矢持地域の皆さん全員が現在地より不便を感じない場所を選定する必要があります。

このことを実現するには、地域住民の皆さんの理解とご協力をいただくことが必要不可欠です。かなりの時間を要するとともに簡単にできることはありませんが、地域の皆さんのご意見を伺うとともに、市の担当部局とも十分協議をしながら進めていきます。

なお、現在の市民センターには一部耐震基準を下回っている箇所があるとともに、他の市民センターに設置されている、自動ドア又は引き戸や車いす利用者等のための手すりやスロープが設置されていませんので、早急に市の担当部局へ改修・設置要望を行います。

誰もが、安全で安心して健康で住み続けられる
矢持地域をめざすための基本方針

【1】人と人との結びつく地域づくり

【2】災害時に生き延びるための地域づくり

【3】健康で楽しく、心豊かに暮らせる地域づくり

【4】一部の人に負担が偏らない地域づくり

【5】安全安心の拠点づくり

計画が目指す方向(基本方針)を実現するための 具体的な活動

【1:人と人との結びつく地域づくり】

- ・お互いに見守りあえる関係や「助けて欲しい」と言える関係を醸成する

(1-1:地域:継続)

- ・地域事情に応じたケアネットワーク会議(地域福祉ネットワーク会議)の見直す

(1-2:地域:継続)

- ・移住者(外国人を含む)の相談窓口を設置し、交流会を実施する

(1-3:協働:短期)

【2:災害時に生き延びるための地域づくり】

- ・ハザードマップを熟知し、地域の弱点を知る

(2-1:地域:継続)

- ・地域事情に応じた防災訓練を行うとともに自主防災組織の再編を提案する

(2-2:地域:短期)

- ・災害時に市民センター機能を維持する

(2-3:協働:継続)

- ・地域の消防団との連携を強化する

(2-4:協働:継続)

- ・停電の原因となっている倒木解消をめざし要望活動に取り組む

(2-5:協働:継続)

【3:健康で楽しく、心豊かに暮らせる地域づくり】

- ・人権を大切にし、多様性を尊重する心を育む取組みを実施する

(3-1:地域:継続)

- ・地域の伝統文化や新たな活動が継続できるよう支援する

(3-2:地域:継続)

- ・いきいきサロンや世代を限定しない交流会等住民交流会への支援及び生活課題を含むあらゆる相談を受付ける窓口を設置する

(3-3:地域:継続)

- ・地域の環境・美化活動や不法投棄監視活動に取り組むとともに、詐欺被害等防止のための啓発活動を行う

(3-4:協働:継続)

- ・活動拠点・情報発信拠点としての市民センターを更に充実させる

(3-5:地域:継続)

- ・市広報などを各戸配布するとともに、広報「やもちの風」を編集・発行する

(3-6:地域:継続)

- ・行政バスの利用促進策の検討及びお買い物バスの運営支援を継続する

(3-7:協働:継続)

- ・市及び県道の整備や危険箇所等の改修及び農作物や森林を守るための獣害対策を関係機関に要望する

(3-8:協働:継続)

- ・健康診断の受診率向上のため、近隣市の医療機関受診を可能とするための要望活動を行う

(3-9:協働:短期)

【4: 一部の人に負担が偏らない地域づくり】

- ・指定管理制度導入に伴い、市民センター機能を見直し自治協事務局機能を強化する (4-1: 地域: 短期)

- ・まちづくり、地域づくりのための人材を育成する。

(4-2: 地域: 継続)

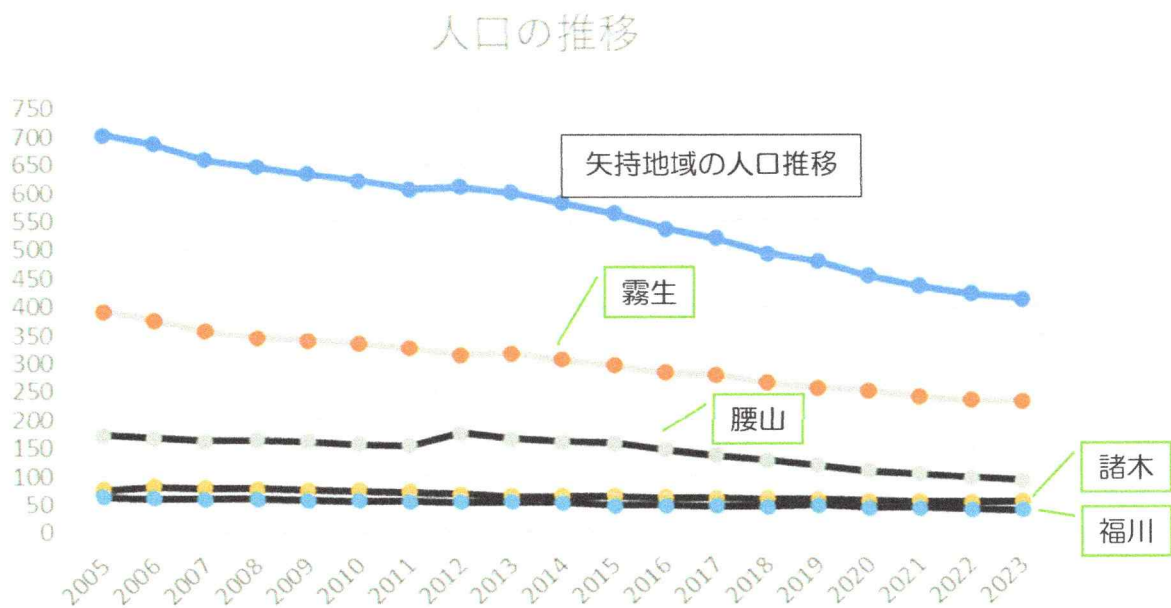
- ・少子高齢化・人口減少が進む地域でも組織活動が継続できるよう年齢差や性差によらず参画できるしくみをつくとともに、地域間の支え合い区等のエリアを超えた連携や協力関係を構築する。 (4-3: 地域: 短期)

【5: 安全安心の拠点づくり】

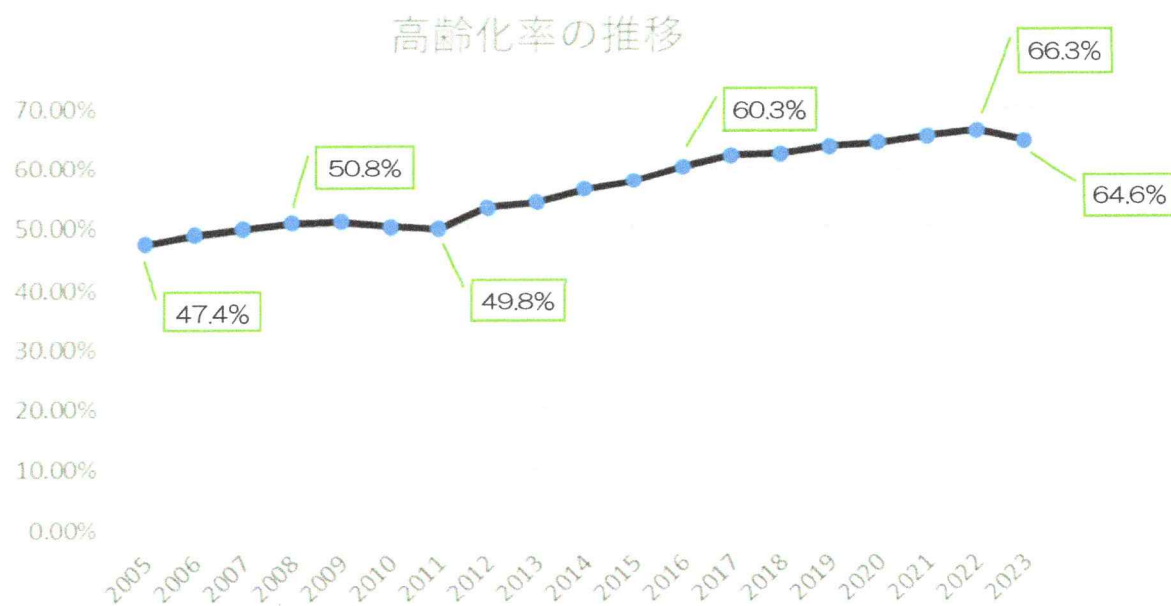
- ・矢持地域の現状に応じた安全で安心して利用できる市民センターを要望する。

(5-1: 協働: 長期)

矢持地域の人口及び高齢化率の推移



※ 各年 9 月末日の数値(伊賀市のホームページより)



※ 各年 9 月末日の数値(伊賀市のホームページより)